

# 福祉生活病院常任委員会資料

(令和6年8月21日)

## 【 件 名 】

- 鳥取県保健医療福祉対策統合本部実施要領の策定について  
(福祉保健課)・・・2
- 「第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」予選審査会の結果及びとり手話フェス2024の開催について  
(障がい福祉課)・・・4
- 鳥取県盲ろう者支援東部センターの設置について  
(障がい福祉課)・・・10
- 認知症等の方々のための「スローショッピング」拡大に向けた取組について  
(長寿社会課)・・・11
- 特定技能外国人と介護施設のマッチング支援事業の実施について  
(長寿社会課)・・・12
- 「真に医師不足にある地方を救う大都市部から地方への実効性のある医師偏在対策を求める要望」活動の実施について  
(医療政策課)・・・13
- 新型コロナウイルス感染症への対応について  
(感染症対策センター)・・・17

福 祉 保 健 部

# 鳥取県保健医療福祉対策統合本部実施要領の策定について

令和6年8月21日  
福祉保健課

県内の大規模災害時において、医療機関・福祉施設の被災状況の把握、医療サービス及び福祉サービスの提供確保、被災者の健康管理・感染症対策、国・他県・全国団体・県内団体等からの受援と分担して、県内への支援チーム派遣、物資配送等を調整すること等を目的に、鳥取県保健医療福祉対策統合本部実施要領を策定しましたので、その概要を報告します。

## 1 実施要領の概要

### (1) 基本的な考え方

- 県内で大規模な災害等が発生し、県内の保健医療福祉活動チームだけでは対応しきれない等の場合に、県災对本部の下、本庁に「鳥取県保健医療福祉対策統合本部」を設置し、各保健所に設置する「保健医療福祉対策支部」等と連携し、保健医療福祉活動に関する総合調整を行う。
- 統合本部は、国、他都道府県、全国団体、自衛隊及び県内関係団体等と密に情報共有を図り、関係機関との連携、調整、他地域からの保健医療福祉活動チームの受援調整等も含めた総合調整を担う。

### (2) 実施要領のポイント

#### 【円滑な応援要請・受援体制確保】

- 国・他県・全国団体・自衛隊等と同一フロアで活動（第2庁舎4階）
- 災害医療コーディネーター、災害福祉コーディネーターを配置
- 災害派遣医療チーム（DMAT）、災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）、災害派遣福祉チーム（DWAT）等の調整本部を一体的に設置

#### 【情報収集体制確保】

- 発災後、福祉施設・医療機関の被災状況等を直接情報収集（保健医療福祉対策支部及び被災市町村での情報収集が困難な場合）  
→非常用通信機器整備（スターリンク、ワイドスター）を6月補正予算で計上
- 市町村等にリエゾン派遣し直接情報収集
- DMAT等が直接収集した情報を速やかに統合本部で共有
- 医療機関や福祉施設の災害時連絡先を複数登録
- 統合本部の連絡先を医療機関や福祉施設等関係機関と共有

#### 【統合本部の円滑な運営のための組織明確化】

- 「総務班」「医療班」「福祉班」を設置（他部局、他県等も含めて編成）
- 圏域ごとに保健医療福祉対策支部を設置
- DHEATや応援職員を速やかに支部へ派遣

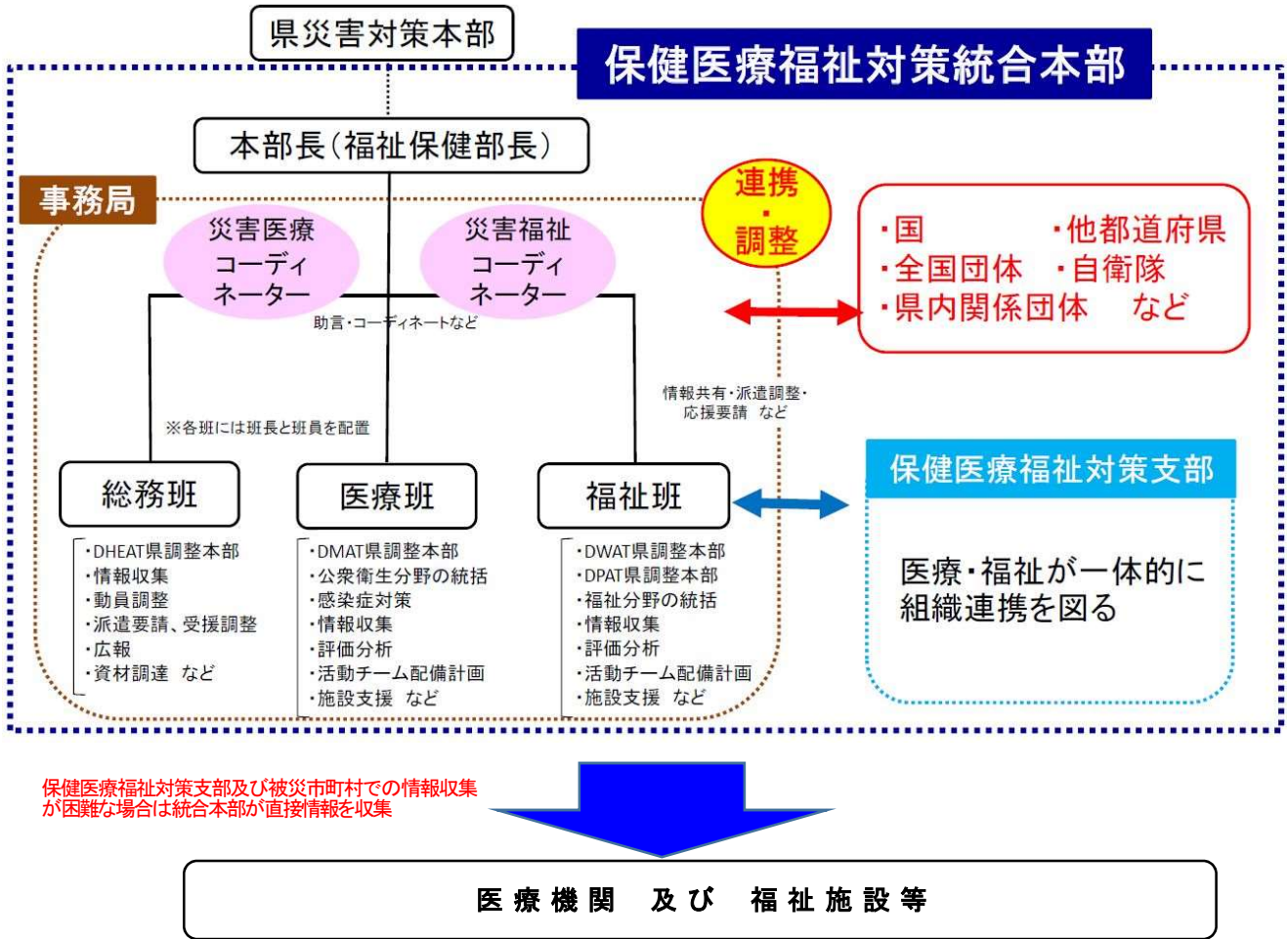
#### 【平時の関係機関による情報共有等】

- 平時における災害時保健医療福祉体制に関する情報共有（統合型医療福祉災害対策会議を開催）
- 災害時の情報収集、連絡等を円滑に実施するため、以下のとおり取り組む。
  - ・災害時に統合本部から被災状況等を聞き取りする際に必要となる施設等の複数の連絡先を事前に登録
  - ・被災施設が支援が必要な際に支援を円滑に求めることができるよう、統合本部の連絡先を医療機関、福祉施設等関係機関と平時から十分に周知・共有
  - ・統合本部を中心とした保健医療福祉活動に必要な効率的な情報共有のあり方について、各種システムの活用等も含め検討
  - ・福祉サービスに係る災害時の課題等について事例及び対応例の情報共有などにより検討
- 統合本部と支部及び関係機関との連携を強化するための訓練・研修の実施

## 2 今後の予定

- 8月下旬～9月上旬 実施要領について市町村、関係機関等へ周知・共有
- 9月中旬～10月中旬 福祉施設、医療機関等へ実施要領の周知及び災害時の複数の連絡先のとりまとめ
- 年度内 統合型医療福祉災害対策会議の開催（講演等による研修、災害時の情報収集、連絡等に係る検討状況等）

<統合本部の組織体制>



(参考) 実施要領策定の経過

- ・令和6年4月5日に県関係課、関係機関等の統合型医療福祉災害対策準備チーム(※)の第1回会議を開催。その後、関係者と個別の意見交換等を実施。
- ・6月7日に第2回会議を開催し、実施要領案について協議。
- ・7月24日に第3回会議を開催し、実施要領を策定。

※準備チームのメンバー

- ・県関係課(福祉保健部の関係各課、人事企画課、危機管理政策課、家庭支援課、子ども発達支援課、各総合事務所県民福祉局、各保健所)
- ・鳥取市(鳥取市保健所、福祉部)
- ・日本赤十字社鳥取県支部医療救護班関係者、DWAT関係者、鳥取県社会福祉協議会

# 「第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」予選審査会の結果及び とっとり手話フェス2024の開催について

令和6年8月21日  
障がい福祉課

「第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の予選審査会を7月25日（木）に開催し、9月22日（日）開催の本大会に出場する16チームを以下のとおり決定しました。

また、手話パフォーマンス甲子園を中心とする手話イベント「とっとり手話フェス2024」を9月21日（土）～23日（月・祝）に開催しますので、概要を報告します。

## ■第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園

### 1 本大会出場チーム

別紙1のとおり15都府県16チーム（19校）を選出。

○演劇・コント・ポエム等部門 8チーム（10校（うち、ろう学校6校））

※合同チームが2つ（石川県立ろう学校・田鶴浜高等学校（石川県）、済美平成中等教育学校・松山聾学校（愛媛県））

○ダンス・歌唱部門 8チーム（9校（うち、ろう学校1校））

※ろう学校以外の学校同士で編成されたチームが1つ（五ヶ瀬中等教育学校・宮崎日本大学高等学校（宮崎県））

### 2 本大会出場チームの選出状況

（1）本県から予選審査会に参加した4チーム（4校）のうち、2チーム（2校）が本大会に出場決定。

ア 演劇・コント・ポエム等部門（1校）

・鳥取城北高等学校（2年ぶり8回目）〔開催地枠で選出〕

※当該部門には、同校以外に鳥取聾学校及び境港総合技術高等学校から参加申込みがあったが、残念ながら予選通過ならず。

イ ダンス・歌唱部門（1校）

・鳥取県立米子東高等学校（2年ぶり5回目）〔開催地枠で選出〕

※当該部門には、同校以外に参加申込み無し。

（2）本大会に初めて出場する学校が7校

ア 演劇・コント・ポエム等部門（1校）

・聖光学院高等学校（福島県）

イ ダンス・歌唱部門（6校）

・足立東高等学校（東京都）

・神戸野田高等学校（兵庫県）

・松江ろう学校（島根県）

・北九州市立高等学校（福岡県）

・五ヶ瀬中等教育学校・宮崎日本大学高等学校（宮崎県）

（3）過去大会優勝経験のある4校も本大会出場（いずれも「演劇・コント・ポエム等部門」で出場）

第10回／第3回：熊本聾学校（熊本県）

第9回：大宮ろう学園（埼玉県）

第8回／第7回／第4回／第2回：奈良県立ろう学校（奈良県）、

第1回：田鶴浜高等学校（石川県）

### 3 本大会演技順・選手宣誓チーム

（1）本大会演技順：別紙1のとおり

（2）選手宣誓チーム（抽選により選出）：鳥取県立米子東高等学校

#### 4 予選審査会の概要

- (1) 日 時：令和6年7月25日（木）午後1時30分から午後2時30分まで
- (2) 審査会実施方法：県議会棟特別会議室（リモート参加あり）
- (3) 審査員

審査員長 (両部門を審査)	しょうざき たかし 庄崎 隆志 氏	演出家・俳優	ろう者
審査員 (演劇・コント・ ポエム等部門)	かわはら まさひろ 河原 雅浩 氏	全日本ろうあ連盟副理事長	ろう者
	おおしろ ようこ 大城 桜子 氏	俳優	ろう者
	たに しんいち 谷 進一 氏	聾宝手話映画代表	きこえる人
	かわい だ さちこ 川井田 祥子 氏	鳥取大学地域学部教授・鳥取大学附属 特別支援学校校長	きこえる人
審査員 (ダンス・歌唱 部門)	おかざき のぶひこ 岡崎 伸彦 氏	手話エンターテイメント発信団 oioi (おいおい)代表理事	ろう者
	Nyank o (にゃん こ) 氏	モデル・手話歌パフォーマー	ろう者
	きたむら じん 北村 仁 氏	ダンサー・手話のWA(わ)ダンス指導者	きこえる人
	はまもと みちこ 濱本 道子 氏	鳥取ダンス協会理事	きこえる人

#### (4) 本大会出場チームの選出方法

参加申込みのあった58チーム（別紙2）から提出された予選審査動画の審査により、本大会出場チームを選出。

##### ア 演劇・コント・ポエム等部門

##### ① 得点順枠（4チーム以上） → 5チーム選出（初出場枠から振り替えあり）

審査得点が高い順に4チームを選出。

##### ② 合同チーム枠（1チーム） → 1チーム選出

①の選出チーム以外に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成する合同チームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出。なお、予選審査で10位以内のチームを対象。

##### ③ 初出場枠（1チーム） → 選出なしのため、得点順枠に振り替え

①及び②の選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出。なお、複数校による合同チームの場合は、全ての構成校がこれまで本大会に出場したことがない場合のみを対象とし、また、各部門の予選審査で10位以内のチームを対象。

##### ④ 開催地枠（1チーム） → 1チーム選出

①から③までの選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームの中で審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出。なお、各部門の予選審査で10位以内のチームを対象。

##### ⑤ 招待枠（1チーム） → 1チーム選出

令和6年1月に発生した能登半島地震で特に被害が甚大であった石川県から、本大会出場チームを選抜。

##### イ ダンス・歌唱部門

##### ① 得点順枠（4チーム以上） → 6チーム選出（合同チーム枠及び招待枠から振り替えあり）

##### ② 合同チーム枠（1チーム） → 選出（応募）なしのため、得点順枠に振り替え

##### ③ 初出場枠（1チーム） → 1チーム選出

##### ④ 開催地枠（1チーム） → 1チーム選出

##### ⑤ 招待枠（1チーム） → 選出（応募）なしのため、得点順枠に振り替え

※それぞれの出場枠の内容は、演劇・コント・ポエム等部門に同じ。

## 5 予選審査結果発表について

- (1) 日 時 令和6年7月26日(金) 正午から午後0時30分まで
- (2) 発表方法 「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」YouTube 上で発表  
(<https://www.youtube.com/user/skoushien>)
- (3) 内 容  
本大会出場 16 チームの発表、本大会演技順の発表、選手宣誓チーム発表及び審査員長講評

## 6 本大会の概要

- (1) 開催日時 令和6年9月22日(日) 午前9時30分から午後4時10分まで(予定)
- (2) 開催場所 米子コンベンションセンター(米子市末広町294) (※現地開催)
- (3) 内 容 予選を通過した16チームによる手話言語を使った演劇、コント、ダンス、歌唱等

## ■とっとり手話フェス2024

### 1 開催概要

手話パフォーマンス甲子園のほか、プロの手話パフォーマンスを体感できる場などを提供し、特に若年層が手話言語へ関心を持つ契機とすることを目的とし、手話で広がるエンターテインメント「とっとり手話フェス2024」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

- (1) 開催期間：令和6年9月21日(土)～9月23日(月・祝)
- (2) 開催場所：米子コンベンションセンター(米子市末広町294)

### 2 開催イベント(主なもの)

イベント	開催日	内 容
第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園	9/22	○全国の高校生が、手話言語を使った演劇、コント、ダンス、歌唱など様々なパフォーマンスで表現力を競う大会。 ○予選を通過した16チームが出場。
とっとり手話フェスLIVE2024	9/23	○音楽やダンス、お笑いを手話で表現するなど、様々な手話パフォーマンスライブ ○出演者 HANDSIGN(手話パフォーマンス甲子園テーマソングを提供) May J.(メイ ジェイ。歌手) DOZAN11 aka 三木道三(ドーナズイレブン エーケーエー みきどうざん。ミュージシャン) ハジ→(シンガーソングライター) 江副悟史(えぞえさとし。男組)、菊地浩輔(よしもと手話ブ!) 俳優 庄崎 隆志×絵描き 門 秀彦(かどひでひこ)×コントラバス 田辺 和弘 ウエスP(お笑い芸人) 瑚(さんご。難聴ダンサー) ほか
エアカフェ	9/22～9/23	豊かな表情とボディランゲージのプロフェッショナルの聴覚障がい者アテンドスタッフが店員となり、リアルな飲食は伴わず、言葉以外のコミュニケーションによる対話を体験できる、想像力で楽しむカフェ。
絵描き・門秀彦さんのアートワークショップ	9/22～9/23	手話パフォーマンス甲子園の審査員を長年務めてきた絵描きの門 秀彦氏による、手話をテーマにしたきこえない人・きこえる人が楽しめる来場者参加型のアートのワークショップ。
鳥取大学手話サークル「うさぎのて」ワークショップ	9/21～9/23	きこえる・きこえないに関わらず楽しめる、ジェスチャーを使ったオリジナルワークショップ。
ミニ手話教室(手話・触手話)	9/21～9/23	簡単な手話を教わり、ろう者の方と実際に手話で会話を体験できる手話教室。あわせて、盲ろうの方とコミュニケーションをとる触手話の体験も実施。

## 第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本大会出場チーム一覧 (予選審査結果)

### ■ 演劇・コント・ポエム等部門

【①得点順枠（5チーム）】※審査得点の高い上位4チーム及び③枠で選出がないことによる振替1チーム

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	関東	埼玉県	大宮ろう学園	おおみやろう	212	3
2	九州・沖縄	熊本県	熊本聾学校	くまもとろう	211	10
3	近畿	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	204	11
4	北海道・東北	福島県	聖光学院高等学校	せいこうがくいん	192	初
5	近畿	京都府	京都府立聾学校	きょうとふりつろう	177	4

【②合同チーム枠（1チーム）】※①を除き聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成された合同チームの中から審査得点が最も高いチームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	中国・四国	愛媛県	済美平成中等教育学校・松山聾学校	さいびへいせいちゅうとうきょういく・まつやまろう	177	2・6

【③初出場枠（選出なし）】※①・②を除きこれまで本大会に出場したことがない最上位チームを選出（選出条件上位10チーム以内を満たすチームがなかったため、選出なし）

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	-	-	選出なし	-	-	-

【④開催地枠（1チーム）】※①・②・③を含め開催地鳥取県の最上位チームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	中国・四国	鳥取県	鳥取城北高等学校	とっとりじょうほく	182	8

【⑤招待枠（1チーム）】※能登半島地震で特に被害が甚大であった石川県のチームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	中部	石川県	石川県立ろう学校・田鶴浜高等学校	いしかわけんりつろう・たつるはま	189	2・11

#### [本大会の演技順]

順番	都道府県名	学校名	備考
1	石川県	石川県立ろう学校・田鶴浜高等学校	
2	鳥取県	鳥取城北高等学校	
3	愛媛県	済美平成中等教育学校・松山聾学校	
4	京都府	京都府立聾学校	
5	福島県	聖光学院高等学校	
6	奈良県	奈良県立ろう学校	
7	熊本県	熊本聾学校	
8	埼玉県	大宮ろう学園	

## ■ ダンス・歌唱部門

【①得点順枠（6チーム）】※審査得点の高い上位4チーム及び②、⑤枠で選出がないことによる振替2チーム

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	近畿	大阪府	久米田高等学校	くめだ	213	2
2	中国・四国	岡山県	明誠学院高等学校	めいせいがかいん	207	4
3	近畿	兵庫県	神戸野田高等学校	こうべのだ	200	初
4	九州・沖縄	宮崎県	五ヶ瀬中等教育学校・宮崎日本大学高等学校	ごかせちゅうとうきょういく・みやざきにほんだいがく	197	初
5	中国・四国	島根県	松江ろう学校	まつえろう	169	初
6	関東	東京都	足立東高等学校	あだちひがし	167	初

【②合同チーム枠（応募なし）】※①を除き聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成された合同チームの中から審査得点が最も高いチームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	-	-	選出なし	-	-	-

【③初出場枠（1チーム）】※①・②を除きこれまで本大会に出場したことがない最上位チームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	九州・沖縄	福岡県	北九州市立高等学校	きたきゅうしゅうしりつ	175	初

【④開催地枠（1チーム）】※①・②・③を含め開催地鳥取県の最上位チームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	中国・四国	鳥取県	米子東高等学校	よなごひがし	178	5

【⑤招待枠（応募なし）】※能登半島地震で特に被害が甚大であった石川県のチームを選出

	地域名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1	-	-	選出なし	-	-	-

[本大会の演技順]

順番	都道府県名	学校名	備考
1	鳥取県	米子東高等学校	選手宣誓チーム
2	福岡県	北九州市立高等学校	
3	東京都	足立東高等学校	
4	島根県	松江ろう学校	
5	宮崎県	五ヶ瀬中等教育学校・宮崎日本大学高等学校	
6	兵庫県	神戸野田高等学校	
7	岡山県	明誠学院高等学校	
8	大阪府	久米田高等学校	



第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 参加申込みチーム一覧

■参加申込 58チーム (60校)

○ 演劇・コント・ボエム等部門  
☆ ダンス・歌唱部門

地域名	チーム数	学校数	No.	都道府県	学校(チーム)名	よみ	※ 参加実績	部門	備考			
北海道・東北	6チーム	5校	1	北海道	北海道美唄聖華高等学校	ほっかいどうびいせいいか	5	☆				
			2	青森県	青森誓学校	あおもりろう	4	○				
			3	秋田県	秋田県立聴覚支援学校	あきたけんりつちようかくしえん	2	○				
			4	秋田県	金足農業高等学校	かなあしのうぎよう	初	○				
			5	秋田県	金足農業高等学校	かなあしのうぎよう	初	☆				
			6	福島県	聖光学院高等学校	せいこうがくいん	3	○				
関東	10チーム	11校	7	栃木県	宇都宮商業高等学校	うつのみやしょうぎよう	初	○	合同チーム			
			7	栃木県	栃木県立誓学校	とちぎけんりつろう	2	○				
			8	埼玉県	大宮ろう学園	おおみやろう	3	○				
			9	埼玉県	小川高等学校	おがわ	初	☆				
			10	千葉県	松戸向陽高等学校	まつどうよう	3	○				
			11	東京都	豊南高等学校	ほうなん	10	○				
			12	東京都	足立東高等学校	あだちひがし	5	☆				
			13	東京都	潤徳女子高等学校	じゆんとくじよし	8	○				
			14	神奈川県	横浜南陵高等学校	よこはまなんりよう	9	○				
			15	神奈川県	日本女子大学付属高等学校	にほんじよだいいがくふぞく	3	○				
			16	神奈川県	横浜富士見丘学園中学校・高等学校	よこはまふしみがおかかぐえん	3	☆				
			中部	7チーム	8校	17	富山県	小杉高等学校	こすぎ	2	○	
						18	富山県	龍谷富山高等学校	りゆうこくとやま	2	☆	
						19	石川県	田鶴浜高等学校	たつるはま	11	○	合同チーム
						19	石川県	石川県立ろう学校	いしかわけんりつろう	2	○	
						20	福井県	啓新高等学校	けいしん	10	☆	
21	静岡県	吉原高等学校				よしわら	初	☆				
22	愛知県	桜花学園高等学校				おうかがくえん	10	○				
23	愛知県	岡崎東高等学校				おかざきひがし	8	○				
近畿	11チーム	11校				24	京都府	京都府立誓学校	きょうとふりつろう	5	○	
						25	京都府	日星高等学校	にっせい	5	○	
						26	大阪府	松原高等学校	まつばら	7	○	
			27	大阪府	久米田高等学校	くめだ	2	☆				
			28	兵庫県	鳴尾高等学校	なるお	9	○				
			29	兵庫県	兵庫県立大学附属高等学校	ひょうごけんりつだいがくふぞく	初	○				
			30	兵庫県	神戸野田高等学校	こうべのだ	初	☆				
			31	兵庫県	高砂高等学校	たかさご	初	☆				
			32	兵庫県	姫路商業高等学校	ひめじしょうぎよう	初	○				
			33	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	11	○				
			34	奈良県	奈良県立高等養護学校二階堂分教室	ならけんりつこうとうようごうかいどうぶんきょうしつ	2	☆				
			中国・四国	13チーム	14校	35	鳥取県	鳥取城北高等学校	とっとりじよほく	11	○	
						36	鳥取県	鳥取誓学校	とっとりろう	9	○	
						37	鳥取県	米子東高等学校	よなごひがし	7	☆	
38	鳥取県	境港総合技術高等学校				さかいみなとそうこうぎじゆつ	11	○				
39	島根県	松江ろう学校				まつえろう	3	☆				
40	岡山県	明誠学院高等学校				めいせいいかくいん	6	☆				
41	岡山県	岡山県美作高等学校				おかやまけんみまさか	7	☆				
42	広島県	広島修道大学ひろしま協創高等学校				ひろしまきようそう	2	☆				
43	広島県	広島高等学校				ひろしま	初	○				
44	徳島県	脇町高等学校				わきまち	2	☆				
45	香川県	高松南高等学校				たかまつみなみ	7	○				
46	愛媛県	松山誓学校				まつやまろう	6	○	合同チーム			
46	愛媛県	済美平成中等教育学校				さいびへいせいちゆうとうきよういく	2	○				
47	愛媛県	松山北高等学校				まつやまきた	初	○				
九州・沖縄	11チーム	11校				48	福岡県	久留米築水高等学校	くるめちくすい	2	☆	
						49	福岡県	北九州市立高等学校	きたきゅうしゅうしりつ	初	☆	
						50	熊本県	熊本誓学校	くまもとろう	10	○	
			51	熊本県	上天草高等学校	かみあまくさ	2	☆				
			52	熊本県	阿蘇中央高等学校Aチーム	あそちゆうおう	2	☆				
			53	熊本県	阿蘇中央高等学校Bチーム	あそちゆうおう	2	☆				
			54	大分県	大分東明高等学校	おおいたとうめい	11	☆				
			55	大分県	佐伯豊南高等学校	さいきほうなん	3	○				
			56	宮崎県	鵬翔高等学校	ほうしょう	初	○				
			57	宮崎県	五ヶ瀬中等教育学校	ごかせちゆうとうきよういく	初	☆	複数校でチームを組み参加			
			57	宮崎県	宮崎日本大学高等学校	みやざきにほんだいがく	初	○				
			58	沖縄県	真和志高等学校	まわし	10	○				

※参加実績欄 数字は参加回数(今大会含む)、「初」:初参加校

【申込み数】

チーム数	58チーム
学校数	60校
都道府県数	30

○演劇・コント・ボエム等部門 33チーム  
☆ダンス・歌唱部門 25チーム

【参加実績内訳】

初参加校	14
初参加チーム	13
過去参加校	46

# 鳥取県盲ろう者支援東部センターの設置について

令和6年8月21日  
障がい福祉課

盲ろう者支援の拠点となる盲ろう者支援センターを、西部に加え、新たに東部にも設置し、8月9日から業務を開始しましたので、報告します。

## 1 鳥取県盲ろう者支援東部センターの概要

### (1) 設置目的

盲ろう者（視覚と聴覚の両方に障がいのある方）が社会から孤立せず、安心して暮らせる社会の実現を図るため、盲ろう者支援の拠点となる盲ろう者支援センターを設置し、専門の相談員による相談支援、生活・コミュニケーション訓練、交流会などを実施する。

### (2) 運営方法

委託（委託先：鳥取盲ろう者友の会）

### (3) 設置場所

東部センター：鳥取市雲山562番地

### (4) 事務局体制

事務局長（西部センター事務局長兼務）、相談員1名（西部センター相談員兼務）、  
事務員1名（東部センター常駐職員）

### (5) 業務内容

東部センター	[参考] 西部センター（平成28年度設置）
<p>[交流会の開催] 月1回程度、支援センター等で交流会を実施。 また、交流会に限らず、支援センターは盲ろう者や支援者が自由に出入りできるよう開放。</p> <p>[相談支援] 相談員が利用者の希望に応じて相談支援を実施。 （西部センター兼務の相談員が対応）</p> <p>[生活・コミュニケーション訓練] 利用者の希望に応じて、家事や歩行等の生活訓練及び点字等のコミュニケーション訓練を実施。</p>	<p>[交流会、相談支援、生活・コミュニケーション訓練] 同左</p> <p>[通訳・介助員の養成] 手話、手のひら書き、筆記、音声通訳、移動介助などの盲ろう者に対する通訳・介助の知識、技術を持った盲ろう者通訳・介助員を養成。</p> <p>[通訳・介助員の派遣] 支援センターに利用登録した盲ろう者に対して、通訳・介助員を派遣。 ※西部センター勤務の派遣コーディネーターが全県の派遣を調整。 ※西部センター職員8名（事務局長、相談員2名、派遣コーディネーター1名、事務員4名）</p>

## 2 センター開所式

- (1) 日 時：令和6年8月9日（金）午前11時30分～正午
- (2) 場 所：鳥取県盲ろう者支援東部センター（鳥取市雲山562番地）
- (3) 参加者：鳥取盲ろう者友の会 村岡 信寿（むらおか のぶとし）会長  
鳥取県 平井知事  
鳥取市 蔵増 祐子（くらます ゆうこ）福祉部長 ほか



# 認知症等の方々のための「スローショッピング」拡大に向けた取組について

令和6年8月21日  
長寿社会課

認知症等になっても暮らしやすいまちづくりを目指して、自分のペースでゆっくり買い物が楽しめる「スローショッピング」（店内表示を工夫したり店員が付添いを行うなどの買い物支援）の試験的な実施を経て、実証実験を希望する店舗を広く募集しながら、県内への拡大を図ることとしましたので、その概要を報告します。

## 1 経緯および現在の状況

令和5年10月以降、本県と包括連携協定を結んだ事業者のうち、スーパーマーケットやコンビニエンスストアを運営する企業に対して、認知症や高齢者の方々に対する買い物支援の実施を提案し、趣旨に賛同された事業者と具体的な実施方法等について協議。

令和6年7月に倉吉市内のコンビニエンスストアで試行し、参加者をはじめ関係者から好評を得たことを受け、広く実証実験を希望する店舗の募集を開始。

## 2 株式会社ファミリーマートと協働して実施した試行の概要

### (1) 事前準備

- ① 県とファミリーマート西日本本部で調整
  - ・店舗内での表示、スタッフの対応方法等を検討
  - ・協力する介護施設や市町村との連携方法等を整理
- ② ファミリーマート西日本本部が県内の各フランチャイズ店舗に照会
  - ・ファミリーマート倉吉清谷（せいだに）店が試験的に行うことが決定

### (2) 実施状況

日時	令和6年7月8日（月）14時から15時まで
場所	ファミリーマート倉吉清谷店（倉吉市清谷町2-477 ※倉吉警察署前に立地）
参加者	倉吉市内の養護老人ホームに入所されている認知症および認知機能の低下がみられる5名の方（うち一部の方は手押し車、車椅子を使用）
付添い	店舗まで施設職員が随伴し、店内では施設職員と店員が付添いを実施
店内の対応	①参加者のゆっくりとした動作にあわせて付添いと接客を実施 ②店内では、店員との会話が聞き取りやすいようBGMの音量を調整 ③店内2つのレジのうち、1つにスローレジの張り紙を掲示 ④レジでは、店員が聞き取りやすく、ゆっくりとした口調で説明

### (3) 感想・意見など

参加者	○店員の丁寧な対応や買い物の手伝いが嬉しかった。 ○コンビニはスーパーよりも面積が小さいので、商品の確認がすぐできてよい。 ○またこの店に来たい。
施設側	○現金による支払いは、時間を要するものの容易だった。 ○セルフレジの使用は困難そうであった。
店舗側	○店舗面積の小ささが参加者にとってかえって買い物がしやすいことがわかった。 ○車椅子の方が商品を取りにくい場面があった（冷凍庫内のアイスクリーム）。

## 3 実証実験を行う店舗の公募（7月18日～令和7年3月31日）

- (1) 県の公式ホームページに申込書等を掲示し、メールまたはファクシミリで受付
- (2) 店舗への支援策（一部は検討中）
  - ① 認知症の方への適切な対応に関する専門家（講師）の現地派遣
  - ② 店舗で合理的配慮を提供するための事業者向け合同研修会
  - ③ 合理的配慮に要する経費等への支援（既存補助事業を活用：補助率2/3、上限30万円）

## 4 今後の取組（予定）

- (1) 引き続き、本県と包括連携協定を結んでいる事業者と協議を継続し、実施の働きかけを行う。
- (2) 実証実験に応募された店舗には、実施に向けた協議と支援を行う。
- (3) 複数の実施例の結果をふまえ、専門家や当事者等で「モデルスキーム」を検討する。

# 特定技能外国人と介護施設のマッチング支援事業の実施について

令和6年8月21日

長寿社会課

介護分野での人手不足が深刻になる中、外国人介護人材の活用がより重要となっていることから、これまで外国人材の採用経験のない小規模事業所を支援することを主な目的として、県内介護施設等と一定の専門性・技能を有する特定技能外国人とを繋ぐマッチング支援事業を開始しましたので、その概要を報告します。

## 1 事業の概要

ノウハウのある民間事業者を活用し、特定技能外国人（介護分野）の受入れを希望する県内介護施設等に対し、就労を希望する特定技能外国人を紹介すると同時にその定着支援を行う。

（委託業者） PERSOL Global Workforce（株）（東京都港区） ※プロポーザルコンペで決定

（介護施設等） 10施設程度に計20名の受入れを目指す。

（当初予算） 4,052千円 （財源） 地域医療介護総合確保基金

## 2 主な内容

### （1）事業説明会等による周知・参加施設等の募集

- ・オンラインセミナーや個別相談により、特定技能制度や採用事例を紹介
- ・受入れを行う介護施設等を募集 ※10月末を目処に受付け

### （2）特定技能外国人を募集するとともに、県内介護施設等とマッチング

- ・特定技能（介護）の試験合格者や合格見込の外国人を20名程度募集  
（インドネシア、ネパール、フィリピン、ミャンマー等の複数国の人材を紹介予定）
- ・上記（1）の県内介護施設等の希望内容等をふまえ、最適な人材を紹介し、面接会を実施

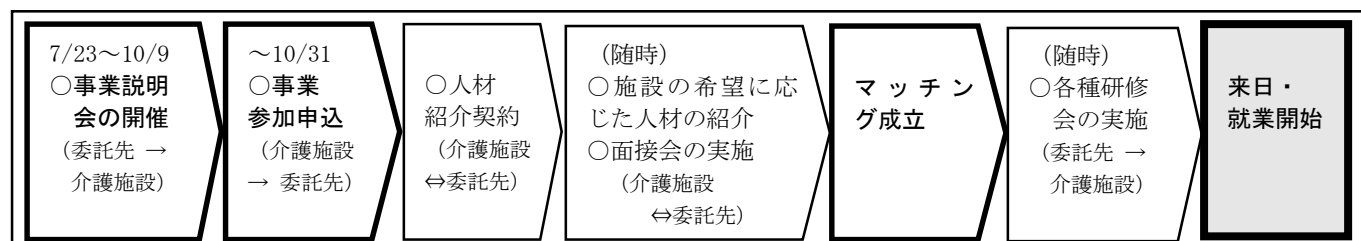
### （3）マッチングが成功した後の、外国人材定着のための取組

- ①介護施設等向け：定着計画策定の支援、受入れのための研修、登録支援機関の紹介
- ②外国人材向け：日本での生活や職場・地域への定着等をテーマにした研修会を開催
- ③双方に対して：入国前にオンライン交流会を実施し、介護施設と外国人材との関係を構築

## 3 事業説明会（オンラインセミナー）等の開催日程及び全体イメージ

（内容）	（日程・開催方法）
外国人材採用の基本情報・他社事例紹介セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月23日（火）10時～11時（オンライン）※実施済</li> <li>・9月26日（木）14時～15時（対面及びオンライン）※エキパル倉吉</li> <li>・10月9日（水）14時～15時（オンライン）</li> </ul>
理事長・経営層向けセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月26日（月）14時～15時（オンライン）</li> <li>・9月10日（火）10時～11時（オンライン）</li> <li>・10月17日（木）10時～11時（オンライン）</li> </ul>
ネパール日本語学校オンライン見学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月18日（木）14時～15時（オンライン）※実施済</li> </ul>
個別相談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時調整</li> </ul>

（事業の全体イメージ）



# 「真に医師不足にある地方を救う大都市部から地方への実効性のある医師偏在対策を求める要望」 活動の実施について

令和6年8月21日  
医療政策課

令和7年度医学部臨時定員について、令和6年度同数（鳥取大学設置18名、岡山大学設置1名）の配分を国に強く求めてまいりましたが、本県を含む「医師多数県」の配分について、国は全国一律に削減する方針を示し、本県も令和6年度比2名減の17名とされました。また、国においては、全国ベースでの医師偏在対策を強力に進めるべく、年末に向け、「医師偏在是正を図るための総合的な対策のパッケージ」の策定が予定されています。

こうした国の動きに対して、この度、本県を含む「医師多数県」有志の県が連携し、地方の医師不足の実情を訴えるとともに、医師偏在対策の転換を求めるべく、国への要望活動を実施しましたので概要を報告します。

## 【医学部臨時定員】

都道府県内の医師不足の解消や偏在是正を進めるため、都道府県及び医師養成を行う大学が連携して毎年国に配分を申請。都道府県は臨時定員を活用し、地域枠等を設置。令和7年度については、「医師多数県」への配分を一律に削減（令和6年度配分数の8割、ただし激変緩和の観点から一部復元措置あり）し、「医師少数県」への手厚い配分に活用することとされた。

## 【医師多数県】

国の「医師偏在指標」による評価であり、同指標の上位1/3（16都府県）が「医師多数県」とされ、本県は13番目（なお、下位1/3の16県が「医師少数県」とされる）。「医師偏在指標」は、人口10万人対医師数の指標に代わるものとして、地域ごとの医療ニーズや人口構成、医師の性別年齢構成等を踏まえ、国が機械的に算出。

### 1 「医師多数県」有志の県

本県のほか、石川県、奈良県、和歌山県、岡山県、徳島県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、沖縄県の計13県（東京都、京都府、大阪府を除く）

### 2 要望活動

- (1) 要望日 8月19日(月)
- (2) 相手方 厚生労働省 迫井正深医務技監
- (3) 「医師多数県」有志の県出席者 平井知事、奈良県（龍見東京事務所副所長）、徳島県（森口政策監補兼保健福祉部長）、香川県（森岡東京事務所長）、沖縄県（新城東京事務所長）
- (4) 要望内容 別添要望書のとおり
- (5) 主なやりとり

（平井知事）

- 「医師多数県」のレッテルを貼られているが、整形外科、小児科のような必要な診療科の医師も確保ができず、また、若手医師も不足しているのが地方の実態であり、これまで一生懸命地域枠の取組などを進めてきた。
- そうした中、「医師多数県」の臨時定員を「財源」として、医師不足を抱える地方の配分を調整する手法に大変危機感を持っている。「医師多数県」「医師少数県」と言えども、両端以外は五十歩百歩。
- 医師の高齢化、専門分化、女性医師の増加、あるいは医師の働き方改革の影響も踏まえ、地域の実情に即した医師不足対策・医師偏在対策を、地方ともしっかりと協議しながら進めていただきたい。

（迫井医務技監）

- 長い目で見ると、医師は明らかに過剰になっていく。医師の配置は医療インフラ、社会インフラであり、日本中で保証が必要。相対的に医師が多いところと少ないところを区別した施策は必要。
- 他方、今回の令和7年度医学部臨時定員の配分にあたっては、これまで恒久定員を活用してまで地域枠等の医師不足対策を行ってきた県の努力を評価し、一部加算（復元）を行っている。
- 年末に向けた医師偏在対策のパッケージのとりまとめにあたっては、しっかりとコミュニケーションを取らせていただきたい。

### 3 今後の予定

国の検討状況を踏まえ、今後も臨機に有志県と連携した国への要望活動を粘り強く行っていく。

<参考：令和7年度鳥取大学に設置する地域枠（予定）>

定員 R6:110名→R7:109名

恒久定員 85名			臨時定員 25名→24名				
一般	学士編入	地域枠	臨時養成枠		特別養成枠	島根県枠	兵庫県枠
73名	5名	5名	2名	<u>12名→11名</u>	6名	5名	2名
				(△1名)			

鳥取県枠：18名→17名

## 医師偏在指標

(都道府県別)

■ 上位1/3 ■ 下位1/3

都道府県コード	都道府県	医師偏在指標
00	全国	255.6
01	北海道	233.8
02	青森県	184.3
03	岩手県	182.5
04	宮城県	247.3
05	秋田県	199.4
06	山形県	200.2
07	福島県	190.5
08	茨城県	193.6
09	栃木県	230.5
10	群馬県	219.7
11	埼玉県	196.8
12	千葉県	213.0
13	東京都	353.9
14	神奈川県	247.5
15	新潟県	184.7
16	富山県	238.8
17	石川県	279.8
18	福井県	246.8
19	山梨県	240.8
20	長野県	219.9
21	岐阜県	221.5
22	静岡県	211.8
23	愛知県	240.2

都道府県コード	都道府県	医師偏在指標
24	三重県	225.6
25	滋賀県	260.4
26	京都府	326.7
27	大阪府	288.6
28	兵庫県	266.5
29	奈良県	268.9
30	和歌山県	274.9
31	鳥取県	270.4
32	島根県	265.1
33	岡山県	299.6
34	広島県	254.2
35	山口県	228.0
36	徳島県	289.3
37	香川県	266.9
38	愛媛県	246.4
39	高知県	268.2
40	福岡県	313.3
41	佐賀県	272.3
42	長崎県	284.0
43	熊本県	271.0
44	大分県	259.7
45	宮崎県	227.0
46	鹿児島県	254.8
47	沖縄県	292.1

※上位1/3の閾値を266.9、下位1/3の閾値を228.0と設定している。

(医師偏在指標について)

医師偏在指標は、医師偏在対策の推進において活用されるものであるが、指標の算定に当たっては、一定の仮定が必要であり、また、入手できるデータの限界などにより指標の算定式に必ずしも全ての医師偏在の状況を表しうる要素を盛り込んでいるものではない。

このため、医師偏在指標の活用に当たっては、医師の絶対的な充足状況を示すものではなく、あくまでも相対的な偏在の状況を表すものであるという性質を十分に理解した上で、数値を絶対的な基準として取り扱うことや機械的な運用を行うことのないよう十分に理解した上で、活用する必要がある。

## 真に医師不足にある地方を救う大都市部から地方への実効性のある

### 医師偏在対策を求める要望書

国において、年末に向け、医師の地域間、診療科間、病院・診療所間の偏在是正を図るための総合的な対策のパッケージの策定が目指されている。しかしながら、現在の国の偏在対策は、医師は全国的に供給過多であるとの認識のもと、国が機械的に算出した医師偏在指標に基づき、医師不足の実態を抱える地方にも「医師多数県」のレッテルを貼り、当該「医師不足の地方」からも医師養成枠を剥ぎ取り他の医師不足が深刻な地方に回すという極めて不合理な進め方となっている。「医師多数県」とされながら、その実情は、地方部においては、中山間地域や離島などの人口が少ない地域を多く含み、医師の専門分化も進展する中、診療科単位では必要な医師が確保できない実態がある。加えて、医師の高齢化と若手医師の流出が年々深刻さを増しており、救急医療等の政策医療を担う若手医師が急速に減少し、必要な医療提供体制の維持が困難となっている。こうしたことから、地域の人口規模や医師の年齢構成を無視して単位当たりの医師数に基づき判断する現在の指標は地域の実情を表したものとなっていないことが明らかである。

そもそも医師偏在の本質は、大都市部への医師の集中である。一定以上の集積がある首都圏内で人口当たりの医師数が少ない首都近郊の医師少数県等と、医師の絶対数が少なく、かつ、医師の高齢化も進展し、医師の定着が厳しく、医師確保の困難な地方部では状況が全く異なっており、これらの本質に目を向けず努力を重ねて平均的な医師数をようやく確保した、高齢化・過疎化が進む中山間地・離島主体の地域についても「医師多数県」のレッテルを貼って医師削減を求めることは、地域医療を悪化させ日本全体の医療を誤った方向に導くものである。このため、医師偏在対策の転換を求めるべく、志をともにする県が連携し、以下の実現に向けて強く要望する。

- 1 「医師多数」とレッテルを貼る地方部にあっては、特に中山間地域や離島では医師の高齢化が進むとともに、政策医療を担う若手医師が急速に減少し、必要な診療科の医師も確保できない実態がある。偏在是正のために医学部定員を見直すとしても医師不足の地方部の臨時定員を削減するのではなく合理的な対策を検討すべきであり、地域それぞれの必要な医療体制を守ること。また、偏在是正にあたっては医師多数県や少数県といった区分けにより一律に行うのではなく、最新のデータに基づき、地域の実情を詳細に分析・認識した上で、地方としっかりと協議を行いながら進めること。

- 2 医師の専門分化や医師の高齢化の進展、女性医師の増加、医師の働き方改革の影響等を十分踏まえ、必要医師数を再検証し、今後も医療需要の高まりが見込まれる中、どの地域にあっても、地域住民の健康が守られるよう、実質的に医師が確保できる、大胆に踏み込んだ仕組みをつくること。
- 3 診療科の偏在については、国が責任を持って実効性のある対策を講じること。

令和6年8月19日

石川県知事	馳 浩
奈良県知事	山下 真
和歌山県知事	岸本 周平
鳥取県知事	平井 伸治
岡山県知事	伊原木 隆太
徳島県知事	後藤田 正純
香川県知事	池田 豊人
高知県知事	濱田 省司
福岡県知事	服部 誠太郎
佐賀県知事	山口 祥義
長崎県知事	大石 賢吾
熊本県知事	木村 敬
沖縄県知事	玉城 デニー



# 新型コロナウイルス感染症への対応について

令和6年8月21日  
感染症対策センター

今夏の新型コロナウイルス感染症の患者数は、6月下旬から全県で増加を続け、第32週（8月5日～11日）は減少したものの引き続き高い水準で推移しており、第11波の流行状況となっています。（オミクロン株の流行が継続していますが、6月以降、KP.3系統（JN.1亜系統）への置き換わりが急速に進んだことも影響）

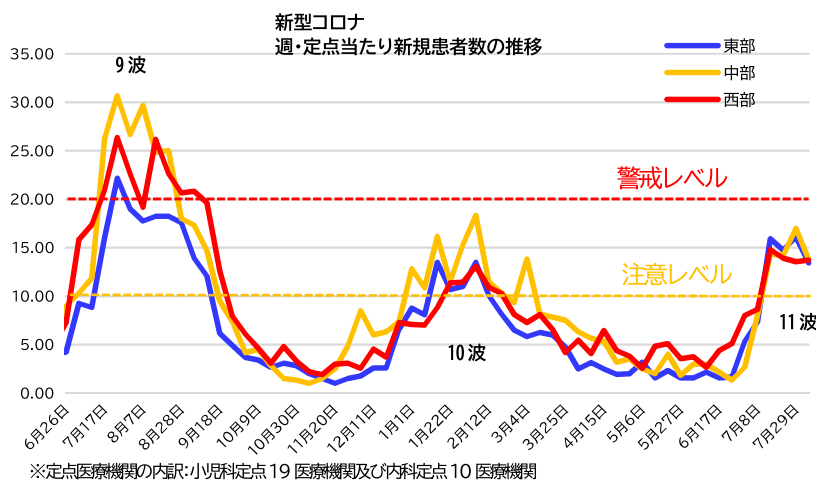
第29週（7月15日～21日）の定点医療機関当たり患者数が全地区で10名/週を超えたため、7月25日に全県に「感染注意情報」を発令しました。

新規入院患者数は、7月中旬以降、基幹定点医療機関当たり50名/週以上の高い水準で推移（そのうちICU入室等の患者数は0～4名程度）しているほか、高齢者施設等での集団感染事例も増加しており、引き続き感染動向を注視するとともに、県民に対して、基本的な感染防止対策の励行等の呼びかけを行っていきます。

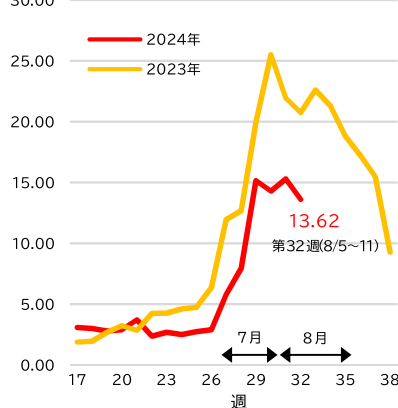
（集団感染事例報告件数 ※[ ]は患者数 6月：14件[169人] 7月：50件[503人] 8月：14件[159人]（8/15現在））

## 1 県内における感染動向

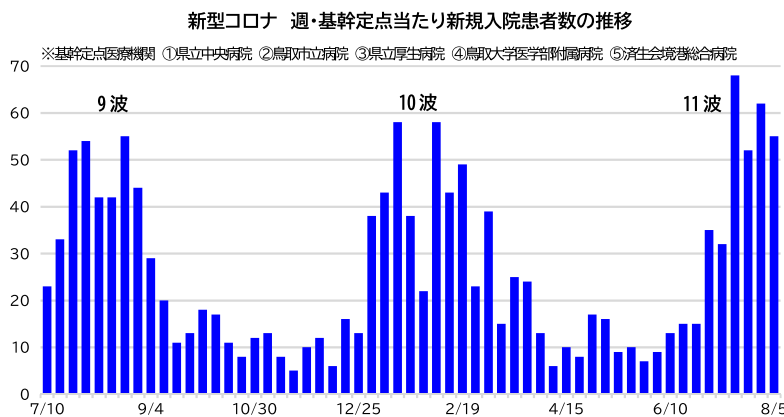
### (1) 週・定点当たり新規陽性者数（地区別、2024年・2023年対比）



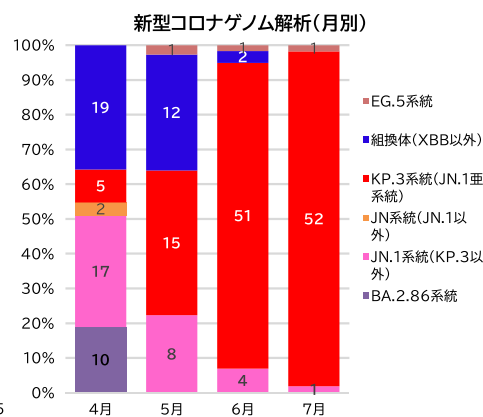
新型コロナ 患者報告数の推移  
(2024年・2023年対比)  
(定点医療機関・週当たり)



### (2) 入院者数



### (3) ゲノム解析



## 2 県民への注意喚起

第29週（7/15～21）において、全地区で、定点当たりの患者数が10人を超えたため、流行情報「注意レベル」に該当し、7月25日に「感染注意情報」を発令。

県民に対して次のメッセージを発出している。

- 基本的な感染防止対策（手指消毒、換気の徹底、場面に合わせたマスク着用等）の励行  
※換気やマスクの着用は熱中症予防と両立を
- 発熱、咽頭痛等の症状がある場合は、事前にかかりつけ医に連絡の上、早めに受診・治療を
- 高齢者や基礎疾患のある方などは、換気の悪い場所や混雑した場所、近接した会話を避ける
- 医療機関や高齢者施設等での集団感染事例が増加、面会時には、施設のルールに従うとともに、体調管理を徹底していただき、体調不調時には延期等も検討を

現在の感染状況が、第8波と比較してどの程度のレベルかを地区ごとにお知らせするもの

- 注意レベル： 定点当たり10人/週（今後の感染拡大に注意が必要と考えられる段階）
- 警戒レベル： 定点当たり20人/週（感染者数の加速度的な増大のおそれがある段階）

※いずれも、定点当たり10人/週を下回れば解除